Newsletter
ニュースレター
GEDATSU
6
VOL.719
令和４年６月１日発行　通巻 719 号
〒 160-0007　東京都新宿区荒木町４　TEL03-3353-2191
発行所／宗教法人　解脱会　　発行人／岡野　英夫
編集人／蔵野　光宏
解脱会ホームページ　QR コード
http://www.gedatsukai.org
Eメール=gedatsushuppan@yahoo.co.jp

今月のみさとし／予は自己反省を唱えて霊性の目醒めを叫んだ。霊性の進歩は人格の向上である。（『ご聖訓』第四巻 23 頁）

第180回 春季大祭

美しく輝く新緑のもと、布教伝導の誓い新たに

第180回を迎えた春季大祭は、５月６日に奉告祭、７日に大祭式典、８日に大祭本祭式典が開催された。参加人数の制限が解除された今大祭には、全国から支部会員代表が集い、万物万霊に感謝の祈りを捧げた。

青年部役員らがおみたま櫃を捧持し、太神社殿前を参進

式辞を述べる岡野理事長

本部役職員によって厳修された萬部御法楽（６日）

風薫る御霊地で一心に祈りを捧げる会員代表

子供たちにお菓子が配られ、たくさんの笑顔が花開いた

まごころ募金に加え、ウクライナ義援金の募金活動を行った

５月６日午前９時 30 分より、大祭奉告祭が執り行われ、岡野英夫理事長をはじめとした本部常任理事並びに本部役員が参列した。太神社殿前の儀に続き、御霊地各所を参拝し、その後、午前 10 時 45 分より五智如来堂にて萬部御法楽が執り行われた。岡野理事長が導師となり、真心からの般若心経７巻を念唱し、厳かに終了した。

翌７日には午前８時からの朝礼終了後、浄炎場にて浄炎之儀が行われ、岡野理事長をはじめとした本部役職員らが参列した。

７日、８日には入り口にて検温やアルコールによる手指の消毒が行われたほか、お山内には間隔を空けた椅子席が設置されるなど、例年に引き続き新型コロナウイルス感染症対策が施された。

大祭は両日ともに、一時雲に覆われたものの、雨が式典時を避けるかのように晴れ間も見られた。式典は正午より開式、国歌斉唱、大祭の歌斉唱、拝礼行事、尊者のみ声拝聴と進んだ。続いて岡野孝行青年本部長が先導し、青年本部役員によっておみたま櫃が捧持され、萬霊魂祭塔の前に安置されると、本部女性職員が生花、天茶、茶菓を捧げた。厳粛な空気の中、般若心経３巻を念唱し、万物への感謝と共存共栄全世界の平和への祈りを捧げた。

式辞に立った岡野理事長は、世界情勢を鑑みて、「自我充実は、遂に一身を毒し一家を毒し一国を毒し、さらに世界を毒して余さず」との金剛さまのお言葉を引かれ、自己反省、自我没却に精進することが世界平和の根本道であり、自身の幸福の道であると述べた。また、み教えを学ぶ幸運に浴する者として、子孫にみ教えを伝えるとともに、社会の迷える人々に手を差し伸べ、「一緒に笑って朗らかに道を求めて歩めるよう、一人ひとりを暖かい慈しみの心でお導きさせていただきましょう」と力強く呼びかけた。

来賓祝辞では、三宮幸雄北本市長から頂戴したお祝いのメッセージが代読され、祝電披露、会歌斉唱、終礼行事と続き、閉式の辞をもって、式典はつつがなく終了となった。

お山内では青年部主催の「スタディツアー in 東北」参加メンバーによる「まごころ募金」と併せて、ウクライナへの義援金の募金も行われ、多くの会員が真心と祈りを込めて募金活動に協力した。今大祭でも、自宅や各支部道場など遠隔地から参加できるように、インターネットを介してお山内の様子や大祭の模様がライブ配信された。なお、この配信動画は、解脱会ホームページから視聴できる。

春季新支部長研修　支部認証式

会員と共に同悲同喜の心で研鑽

支部長の心構えを培った新支部長研修

支部認証式にて役目の責任と自覚を深める

４月23日に御霊地･解脱研修センターにて、令和４年度春季新支部長研修並びに支部認証式が開催された。前年に引き続き、新型コロナウイルス蔓延防止策として規模を縮小しての開催となり、支部継承支部長らが研鑽した。

午前10時より開式し、拝礼行事を行った。その後、岡野英夫理事長から「支部長の役目・心得」として、「支部長とは解脱金剛さまから唯一の法脈を頂く非常に尊いお役目であるから、決して自分の力で人を導くといった間違った思い上がりをなさらないように、『会員の幸せの為にどうぞお使いください』と、会員と同悲同喜の心で共に勉強してもらいたい」と期待を込めた言葉が新支部長たちに向けて贈られた。続いて宮坂保徳教務局長より「支部運営と活動」についての講話があった。

その後、松田佳高布教本部員より「諸札の扱い方と心得」についての講義があり、中村浩之本部教務員からは「支部の実務」についての講義が行われ、参加者は実習を交えた指導を受けながら支部長としての業務について学んだ。終礼行事の後、会員各家並びに参加者各家の先祖供養を厳修し、無事研修を終えた。

研修終了後はお浄めの間に場所を移し、支部認証式が開催された。岡野理事長から直々に辞令が手渡され、「支部長として認証をさせていただいた以上、今後は大祭の時に解脱金剛さまと魂の交流がなければなりません。どうぞ大祭を皆様方の出発点としてしっかりと参拝し感謝申し上げていただきたい」と激励を受けた新支部長らは、改めて自らのお役目に対する責任と自覚を深めながら士気を高め、式は厳かに終了した。

令和4年度

春季大祭で認証された名誉支部長・新支部長

名誉支部長　支部継承支部長

京都・京都朱雀	新潟・新潟青山	東京１・川崎宮崎台	東京２・日本橋	滋賀・滋賀草津	京都・京都朱雀	九州・福岡平和準
藤原　誠介	高橋　市彌	山口　敏和	荒川　昇	太田　美智彦	守谷　明	中村　敦子

第170回 海老名萬霊魂祭塔春季大祭

先覚者の墓前にも真心の天茶供養

総ての霊魂に感謝の供養を捧げる

４月24日、神奈川県の海老名萬霊魂祭塔前にて「第170回海老名萬霊魂祭塔春季大祭」が、解脱会本部主催、神奈川教区主管の下で行われた。

今回も感染防止のため、参加者は縁が深い東京地区会員と神奈川教区役員に限定しての開催となった。この日、特別に設けられた祭壇には、天茶と共に会員が奉納したお神酒や生花、野菜や果物などたくさんの供物が整然と並べられた。

式典は、福井恒明教区長の諷誦文奏上の後、本多伸一担任部長の先達で心を一つに般若心経を唱え天茶供養を厳修した。

式典の後、福井教区長は「塔の建立に奉仕され、建立以後もお守りくださってきた斎藤重保氏や斎藤家の方々と海老名支部会員、東京、神奈川の先輩会員など総ての先覚者へ思いを馳せながら、改めて心から平和への祈りを捧げ、生活行に邁進していきましょう」と挨拶した。

引き続いて、参加者一同は斎藤家の墓前に移動し、斎藤重保氏をはじめ斎藤家の先祖へ感謝の天茶供養を捧げ、今後に向けた精進を誓った。

7月度研修

「健康学園」のご案内

開催日●7月30日/31日（1日ずつ）
会　場●御霊地・解脱研修センター
目　的●「健康指導シート」にて基本を学び、健康指導を活用できる人になる
対　象●会員と家族、法縁者
申　込●２人１組で先着順
締　切●７月１日（定員15組／日）
研修費●１人3,000円／日
問合せ●解脱会教育部
TEL 03(3353)3667（教育部直通）
TEL 048(593)0190（御霊地健康指導室）
※詳細は５月１日付本部通信を参照

群馬教区大会

御霊地で自魂を揺り起こす

吉岡医師を囲んで記念撮影

講演される吉岡医師

群馬教区では４月 24 日、御霊地・解脱研修センターにて、NPO 法人「ジャパンハート」最高顧問・吉岡秀人医師を迎えて教区大会を行い 191 名が参加、万全な新型コロナ感染防止策も講じられた。

最初に荒木友充教区長が、「この機会に自魂を揺り起こし、教区会員の教えに対する意識と力の底上げにつなげたい」と熱い想いを語った。次に倉田正治教区担当が、解脱会が取り組んでいる「副食を献じる運動」の大切さを述べた後、山口董氏、荒木裕翔氏より、ミャンマー・スタディツアーを通した体験談が発表された。吉岡医師は特別講演にて、「医療の届かないところに医療を届ける」を理念に、国、地域、人種、政治、宗教、境遇などを問わず全ての人が医療を受けることができ、「生まれてきてよかった」と思える社会の実現を目指して活動していることについて医療活動の映像と共に述べた。参加者は一言も逃すまいと真剣な眼差しで聞き入り、中には涙を流す者もあり、質疑応答を含む 120 分の講演が短く感じられた。なお、当日の講演はインターネットでライブ配信され多くの反響があった。昼食後、５名が感想として「参加して良かった」と全参加者共通の想いを発表し、教区役員からも「解脱会本部をはじめ多くの関係者の配慮と協力に感謝したい」との声が挙がる中、大会は更なる教区活性化に向けて力の発揮を誓う新たな出発点となった。

名古屋第２教区・修法研修

コロナ禍でも安心の御修業のために

名古屋第２教区では４月 17 日、御五法修業仲介者研修会を中部道場にて開催し、本部より岩田始指導員が出講、各支部の修法担当 14 名が参加した。

当研修は、「ウィズコロナ」社会の中で感染防止策を取りながら、安心して御五法修業を行う方法を具体的に学ぶと共に、名古屋第２教区として現状を踏まえながら、各支部仲介者の育成と今後の課題を探ることが目的。

研修では支部仲介者のあり方として、「仲介者の考えを押し付けず、霊魂の心を総て汲み取るように心がける」「自己認識、自己反省が、修業者本人が生活の中で認識できるように寄り添った事前事後の話し合い」「御修業でのお示しや仲介者の判断内容を修業者の支部長にも伝え共有する」などの点について、熱心に学びを深めた。また、研修当日の検温や消毒、後日の体調チェックなど感染防止策や感染した場合の対応を解脱会本部が示す指標にそって実施した。

安全と安心のために学ぶ参加者

参加者は御五法修業の尊さと、コロナ禍でも安全・安心に行う方法を学び、仲介者として支部での実践を誓った。

8月度研修

「修法研修」のご案内

開催日● 8月27日（土）
会　場●御霊地・解脱研修センター
目　的●「修法シート」にて基本を学び、支部に貢献できる人になる
対　象●支部長、支部長夫人、後継者及び支部長が認めた方
締　切● 7月15日（定員27名）
研修費● 3,000 円
問合せ●解脱会修法部
TEL 03(3353)3706（布教部 / 修法部）
TEL 048(591)2526（御霊地 修法室）
※詳細は6月１日付本部通信を参照

名古屋第１教区・女性部

真心から天茶供養を捧げる

供養後、女性部活動の近況を共有する参加者

名古屋第１教区女性部は４月 24 日、予定していた中部道場の氏神での清掃奉仕が雨天で中止となり、変わって中部道場近隣の土地供養と参加者各家祖先代々幼児流産無縁の天茶供養を真心から行った。

供養後は、コロナ禍の各支部女性部活動の近況などを共有。最後に、安達朱美副担任部長から「『婦道十訓』に少しでも近づくよう努力しよう」との激励を受けて散会した。

東京第７教区・第９回教区の集い

初夏の訪れを感じる御霊地で

掃き清めた清々しい御霊地を参拝した教区会員一同

東京第７教区では４月29日、爽やかな風の吹く御霊地において通算９回目の「教区の集い」を行い、約90名が参加した。昨年と一昨年はコロナ禍のため中止となり３年ぶりとなる今回、基本的な感染対策が徹底された。

この「教区の集い」は「教区は大きな家族」をテーマに、大祭前に御霊地を清掃奉仕するため教区一同が集う絶好の機会を利用して、会員の交流を目的に開催されている。

今回は「私たちの聖地・御霊地を学ぶ」をテーマに作成された資料を基に説明を受けながら各所を巡拝。また子供たちには、役員手作りの子供向け資料を手に別グループを作り、大人と共に巡拝した。そして参加者全員で祈りの基本や言葉掛けを確認し合い、声を合わせ心を合わせて「私たちの聖地」を巡った。

最後に記念撮影、お弁当や子供にはお菓子を配布して午前中に終了した。

田島知幸教区長は挨拶の中で、「御霊地は魂のふるさとであり尊い所。今回の学びで初心に帰り、今後も御霊地に足繁く体を運び、肉体で学び、心で学び、魂で感動・躍動させていただけば、解脱の中心を学ばせていただける。支部や教区の発展と、周囲の方々の幸せを願い、学びを深めさせていただきましょう」と力強く述べた。教区会員一同は、金剛さまのご法体である御霊地で初夏の訪れを感じながら和気藹々のひと時を過ごした。

名古屋瑞穂支部・支部継承10周年

ますますの伸展をめざして

名古屋瑞穂支部では４月13日、支部継承10周年記念感謝会を支部御神前において開催、本部より服部宇之輔常任理事が出講し、新型コロナ感染防止対策が万全に施される中で多くの支部会員が参加した。

当支部は、昭和12年12月に初代支部長の赤穂宇喜一氏が創設。以来、歴代支部長と共に会員は精進を重ねてきた。現在の鈴木喜代志支部長は平成24年春季大祭において支部を継承し、６代目支部長に就任した。

式典では、拝礼行事、金剛尊者のみ声「五法則」を拝聴した後、当支部会員各家祖先代々之霊、支部先亡者之霊へそれぞれ感謝の天茶供養を厳修した。

講話では、服部常任理事が次のように更なる躍進へ向けて参加者を激励した。

「継承10年を振り返り、皆さんはいかに多くのお蔭に支えられてきたかを自覚していると思う。尚一層の報恩行に徹し、三施（身施、法施、物施）の徳積みに励み、コロナ禍の中、真心の天茶供養と真剣な祈りを捧げ、尚一層の精進努力の道を歩むことが肝要です」

挨拶に立った鈴木支部長は「樹木が節目から新たな芽を芽吹かせるように、この先も一年一年を大切に精進して、新たな芽が大きく伸びるように切磋琢磨して参りましょう」と、益々の伸展を目指して決意を述べた。

服部常任理事より激励を受ける会員たち

終了後は、直会の会場へ移動して会員たちは和やかに慶事を祝した。

岐阜関ケ原支部・春季怨親平等大供養祭

恵みの雨に心身を浄めつつ

岐阜関ケ原支部では４月24日、春季怨親平等大供養祭を古戦場跡地において挙行、役場や自治会など地元の承諾の下、万全の新型コロナ感染防止策がとられる中で各所の氏神へ開催報告のため参拝した後、支部会員のみで式典を行った。

生花を献じる女子青年たち

当日は、恵みの雨を頂いて心身共に浄めながらの開催となり、国旗を見上げながらの国歌斉唱、在りし日の金剛尊者のみ声「五法則」の拝聴、表白文奏上、親子孫の各世代による献供之儀と続いた。

怨親平等大供養では、合戦地一円に天茶の功徳が届くようにとの祈りを込め、天高く撒きながら天茶供養を厳修した。

最後に安田信二支部長が挨拶に立ち、平和を真心から祈る当供養祭の意義と共に次世代への継承や地域への更なる広がりの重要さを述べた。

真心から供養を捧げる参加者

役員らは今回も無事に開催できた喜びを噛みしめながら、心を新たにして供養祭に臨む覚悟を誓い合った。